

## 「わかりやすい授業づくり」の方法と留意点

### 【重要な学習内容・習得すべき活動の設定】

- ・欲張り過ぎず、一度に教える内容を精選する。
- ・本時の学習で最も重要な内容を明示する。
- ・「日本語の目標・ねらい」と「教科の目標・ねらい」を明確にする。

**習得させたい日本語表現（←日本語支援）**  
**＋ 教科内容（←教科学習支援）**

→ 2つの目標達成が求められるため、1時間の授業内容は（在籍学級の）通常授業よりも密度が濃い。

- ・（日本語の）「語彙」の学習ではなく、（教科内容の）「概念」の学習であることを意識。
- ・既習事項の（理解度の）確認と本時の連続性。

### 【実物、図表、写真、絵等を積極的に活用】

- ・日本語力が十分でない子どもには、言葉だけの説明や抽象概念の操作は難しい。
- ・具体的なイメージづくりを助ける。
- ・具体的な活動を取り入れる。

### 【わかりやすい言葉づかい】

- ・短く、明確、的確な語彙を選択。  
例）同じ内容の説明を違う言い方でしない  
一文が長い説明をしない
- ・発問の仕方を工夫する。  
（発問と応答のパターンを理解させる）
- ・重要事項は繰り返し伝えて定着を図る。

### 【スモールステップ化】

- ・聞く・読む・書く・話す を1時間の授業の中にバランスよく取り入れる。
- ・指導の流れ（一連の流れを日本語で経験させる）

教師の支援	子どもの活動
① わかりやすい日本語で表現する。要点を繰り返す	① 聞く（教師の説明を聞いて理解する） 読む（教師に指示された内容を読んで理解する）
② 学習の過程や結果を日本語でまとめさせる（ワークシートの活用）	② 書く（授業内容を自分で書いて整理する）
③ 学習したことを他者に向けて日本語で表現する機会を設ける	③ 話す（学んだことを周囲に発信していく）
④ 学習の成果をほめる	④ 学習の成果を確認する（成果を可視化する）

### 【教材の工夫】

- ・子どもの興味・関心をひく教材の作成や選択。
- ・板書、ワークシートの工夫。
- ・学習内容の可視化の工夫。

### 【その他の留意点】

- ・子どもの成長に応じた指導方法の選択（低学年と高学年、小学校と中学校では指導方法が異なる）。
- ・子どもの理解度よりも、やや高めの授業目標の設定。
- ・自尊感情が持てるような授業展開（「わからない」状態に置かれているため自信を喪失気味）。
- ・子どもどうしの学びあいの場づくり（子どもの学ぶ意欲を引き出す）。